汚泥再生処理センター整備基本計画（案）に対する意見及び市の考え方

1　意見募集期間

令和５年１月２３日（月曜日）から 同年２月２２日（水曜日）まで

2　意見の提出者数及び意見の件数

提出者数　　３名

意見の件数　　９件

3　意見の概要及び市の考え方

該当箇所	意 見 の 概 要	市 の 考 え 方
全体	住民説明会はいつ頃行うのか？	生活環境影響調査の結果報告と併せ、令和5年度に開催予定です。
全体	地域還元施設を再検討されたい。	現時点では予定していませんが、地域からの要望があった際には検討いたします。ただし、敷地の都合から、整備は既存施設を解体した後になる見込みです。
P25	処理区域別人口予測の根拠を知りたい。	熊谷市全体人口は「第2期熊谷市人口ビジョン・総合戦略」に基づく推計値を基に、令和3年度における実績値と推計値との差分を毎年一律で調整して予測しています。処理区域別の人口は直近5年間の実績値の推移から人口比率を推計し、この比率を熊谷市全体人口に掛け合わせ予測しています。
P67	採用する事業方式は？	P83 記載のとおり、「DB 方式+民営」を導入する方針です。
P67	設計・施工の段階では、施設利用者である浄化槽清掃業者と協議・意見交換の場を設けてほしい。	御意見のとおり、対応いたします。
P67	新施設の運営に浄化槽清掃業者も参加したい。	新施設の運営は、運転及び維持管理を包括的に委託する予定です。施設維持に最適な受託者を総合的に判断して対応いたします。

P87	水処理方式について、処理水を市内に還流させることが水源確保の観点から妥当であるため、「下水道放流方式」を再検討願いたい。	下水道放流方式は、他の水処理方式と比較し、施設面積を最小とすることができ、電気使用量、薬品使用量を最小に抑え、コストだけでなく、環境負荷も小さい方式です。 また、汚水処理施設の持続性確保を目的に国・県が進めている広域化・共同化計画に則した処理方式であるため、現行のままとします。
P87	水処理方式について、地下水の枯渇、地盤沈下が懸念されるため、「地下水での希釈処理」を再検討願いたい。	希釈水は、既存井戸を利用予定です。他の市内施設の実績からも環境への影響は軽微と予想されるため、現行のままとします。 貴重な御意見として、今後の事務の参考とさせていただきます。
P88	汚泥の再資源化方式について、従来から堆肥化を進めてきた経緯があり、地域内で資源として循環させるべきであるため、「助燃剤化」を再検討願いたい。	P51 記載のとおり、既存施設の資源化方式「堆肥化」と比較して整備費用が安価で施設面積も小さく済むこと、安定した利用先である焼却施設が市内にあることから、令和元年度に決定済みであるため、現行のままとします。